

NGB スタートアップ企業レポート



株式会社 NoSchool



【設立】2018年5月
【所在地】〒113-0034
東京都文京区湯島3丁目4-6
ハイ・シティ湯島3F
【代表者】代表取締役 往西 聡(おうにし あきら)
【URL】<https://manalink.jp/>

NGB スタートアップ企業レポートとは、NGB メンバーがスタートアップ企業にインタビューを実施し、その会社の知的財産に関する取り組みを中心に紹介するものである。今回はオンライン教育事業を行う株式会社 NoSchool の往西 聡代表取締役にインタビューを行い、事業概要や知的財産に関する活動についてお話を伺った。

スタートアップ企業の 知的財産に対する課題

革新的なアイデアや技術を持つスタートアップ企業にとって、知的財産に関する取り組みは不可欠なものである。しかしながらスタートアップ企業は、資金や人材等が限られた中で事業成長を追求しなければならないため、知的財産に対して十分に組み立てていない場合が多い。また、知的財産に関する重要性は認識しているが、どのような取り組みをすべきかわからないといった場合や、そもそも自社のサービスや製品

が特許にはならないと先入観を持ってしまいうスタートアップ企業も存在する。

今回インタビューを行った株式会社 NoSchool (以下 NoSchool) はスタートアップ企業ながら、往西聡氏 (以下 往西氏) をはじめとした関係者の方々のご知見により知的財産への取り組みを行っている企業である。

本レポートは NoSchool の代表取締役を務める往西氏へインタビューを行い、NoSchool の事業概要や知的財産に関する取り組みについて伺った内容をまとめたものである。



図1 マナリンクのイメージ図

NoSchool の事業とは

「活躍すべき人が活躍する社会をつくる」

NoSchool は 2018 年 5 月に設立された、オンライン教育事業を行う企業である。場所や環境に左右されず、自身のスキルを 100% 発揮できる「活躍すべき人が活躍する社会をつくる」をミッションにオンライン家庭教師のマッチングプラットフォーム「マナリンク」を運営している。

NoSchool の運営するマナリンクは在籍している社会人のプロ講師から自分の相性に合った講師を指名することができる。従来の家庭教師ではコースによって決められた講師の授業を受講することになるが、マナリンクでは受講前に講師のプロフィールや自己紹介動画等の詳細情報を確認することができ、講師の雰囲気や事前を知ることができる。このことによって受講開始後のミスマッチングを防ぐことができ、より自分に合った授業を受講することができる。講師は自分で検索して探す、もしくは運営に相談しておすすめの講師を紹介してもらうこともできる。

在籍している講師は塾経営者、プロ家庭教師、教員免許保持者、元教員など、長いキャリアを積んだ社会人の講師がメインであり、高品質な授業を提供している。

また、マナリンクではチャット上で講師と直接やり取りを行うことができる。連絡先を交換せず授業日以外にチャット上でやり取りを行えることで効率良く授業を進めることができる。

NoSchool はオンライン家庭教師のマナリンク以外に社会人のための資格取得に特化したオンライン個別指導サービスである資格のマナリンク、通信制高校から大学進学を目指すための通信制高校サポート校であるマナリンク高等学院、不登校の小中学生向けの学校復帰を目指さないオンラインフリースクールであるマナリンク小中等部を運営している。

小学生から社会人まで環境や目的に応じたオンライン教育事業を展開しており、まさに NoSchool の目指す「活躍すべき人が活躍する社会をつくる」ということの実現に向けて歩みを進めている。



図2 マナリンクの特徴

NoSchool の知的財産に関する取り組み

冒頭にも述べたようにスタートアップ企業にとって資金や人材を知的財産の活動に十分に充てるのが難しい状況であるのが現実である。その中で NoSchool は 2024 年 8 月時点で 1 件の日本の登録特許を有している。

ここでは NoSchool の 徃西氏にインタビューした出願までの流れや知的財産に対する考え方について述べる。

当時の出願までの流れ

出願のきっかけは出資元であるベンチャーキャピタルの担当者から知的財産の重要性について説明されたときであった。教育業界では事業のコアとなるような発明が創出されづらく、今まで出願に対して積極的ではなかったが、権利化することで自社の技術を守ることができ、安心して開発や事業を進めることができるということを知り、出願を進めることにしたと徃西氏は語る。

知的財産の活用方法

教育業界においては、先端的な技術開発よりも講師の授業品質やバリエーションがユーザの満足度につながると考えられている。

各講師の魅力を最大限に伝え、生徒が自分に合った講師を選択できるように NoSchool では技術開発の軸として「人」にフォーカスした技術開発が進められている。例えば講師がより質の高い授業ができるような講師の授業サポートツール、講師と生徒のコミュニケーションを円滑に進めるためのマッチング後のサポートツール、自分に合った講師を効率的に選択できるシステム等の開発を進めている。今回出願し

た特許も講師の情報と生徒の情報から生徒に合った講師の自己紹介動画をレコメンドするというものである。

NoSchool では社内には開発部隊が存在しており、他のスタートアップ企業と比べて技術開発のスピード感が速く、顧客のニーズにすぐに対応できるとのことであった。

その中で創出された技術に対して、知的財産の活用方法としてはより広い範囲の権利を取得して権利行使していくというよりも、保険のような位置付けで自社のコアとなる技術を保護していくという守りの観点で知的財産を活用しているとのことであった。

特許出願を経て

出願時に特許事務所と相談しながら出願を進めたことで知的財産に対する知見を深めることができた。権利化については登録になることが当たり前だと思っていたが、登録になるまでに複雑なプロセスがあり、想定していたよりも登録になることが難しいということが知れたとのことだった。

スタートアップとしての自社のおかれた状況の特許事務所の担当者に理解してもらい、綿密な打ち合わせを重ねながら出願を進めていけたのが特に助かった。出願の権利範囲についても担当者との議論を重ねて落としどころを見つけることができ、納得のいく権利範囲で出願することができたとのことであった。

今までは技術開発においても売り上げや機能の観点で捉えていたが、出願の経験を経て、他社の権利を侵害していないかどうかや権利化することができるか等、知的財産の観点から技術開発を捉えることができるようになったと徃西氏は語る。

今後は徃西氏だけでなく、社内のメンバーにも知的財産に対する考え方を浸透させていきたいとのことであった。

最後に

本レポートではNoSchoolの徕西氏にお話を伺い、NoSchoolの事業概要や知的財産における活動についてまとめた。

現時点でNoSchoolが出願した件数は1件ではあるが、実際に特許出願のプロセスを特許事務所と進めていったことで確実に知的財産への知見が広がり、重要性が理解できたのではないかと考えられる。

筆者は今回のインタビューを通じて、スタートアップ企業において、現状は知的財産の取り組みに対する優先度は低いと思われるが、まず知的財産の取り組みを始めてみることで重要性や必要性を理解することができると思う。経験を経て、今後の自社の事業計画や経営戦略について知的財産という視点から見ることで新たな気づきが生まれる可能性があると思う。

また、スタートアップ企業を支援する知財関係者は知的財産の保護による有効性を正しく伝えることでその重要性を理解してもらう必要がある。重要性を理解してもらったうえでスタートアップ企業の置かれた状況を理解し、密なコミュニケーションをとりながら、二人三脚でよりスタートアップ企業にとって有意義なサポートしていくことが求められるだろう。



おうにし あきら
徕西 聡 代表取締役

株式会社 NoSchool

陸上自衛隊少年工科学学校卒。18歳でスタートアップに入社し法人営業を担当。20歳で海外事業部に異動しその後マレーシアにて約4年駐在。マレーシアでの新会社立ち上げ、現地責任者として勤務。2018年に帰国し、株式会社NoSchoolを設立。

好きな言葉は「道徳なき経済は罪悪であり、経済なき道徳は寝言である」

NGB株式会社 **NGB**
I P 総研

〒105-8408 東京都港区西新橋1-7-13

虎ノ門イーストビルディング

URL : <https://www.ngb.co.jp/>

Mail (IP 総研) : ip-soken@ngb.co.jp

担当者 : 澤村和輝、伊藤寿

協力 : 木本恭介(モバイル・インターネットキャピタル株式会社)

この記事は2024年7月に取材をした情報に基づき作成されたものです。